

## 第3章 まちづくりの基本方針

### 3-1 まちづくりの基本理念

#### 集約と連携による新しい嬉野市の構築

嬉野市に「住む」人、「訪れる」人のためのまちづくり

嬉野市では、多様なニーズに対応した都市機能や、就業・就学や消費などの都市活動機会が不足し、市民の生活行動も広域化（市外流出）していることから、市内に分散する既存の都市活動基盤・機能や、歴史・文化資源といったストックを有効活用するとともに、周辺都市との連携・相互補完により、活力あるまちづくりを進めます。

また、嬉野市の都市活動主体（生活者、事業者、行政など）のニーズと、都市機能や都市の可能性をすり合わせ、“未来の嬉野を創る”ため、行政と市民・事業者等の協働によるまちづくりを進めます。

#### 嬉野市の特性、魅力、可能性を結集したまちづくり

- 既存ストックを活かし、集約型の都市構造の構築と、地域コミュニティや嬉野の風土の維持を図る。
- 産業・文化における人や物、財の流動に対応した都市拠点の形成を図る。
- 使い慣れた既存ストックを活用し、誰にでも解かりやすく、安心かつ効率的に暮らす（使う）ことができるコンパクトな都市の構築を図る。

#### 嬉野市の位置づけ・役割を見据えた広域圏のまちづくり

- 周辺都市との広域的な連携と、多様なニーズに対応した都市機能の相互補完を図る。
- 嬉野町並びに塩田町の資源、特長を結びつけ、地域の環境や景観、主要産業である観光への活用を図り、個性を生かした社会的・文化的価値の創造を図る。
- 交流の拡大・活発化を目指し、年齢・性別・身体的能力・言語などによって行動範囲が制約されない、誰もが暮らしやすい、活動しやすい都市の構築を図る。

#### 多様な都市活動主体が自ら創り出す自分たちのまちづくり

- 市民・事業者等の自発的なまちづくり活動により、魅力的な嬉野の創造を図る。
- 嬉野市や各地域の自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを通じて、地域社会における主役としての市民の自覚を促し、市民活動の活性化を図る。
- 市民や事業者が主体となって取り組むまちづくりを支える環境整備に向け、市民・事業者・行政が協力しあえる体制づくりを図る。

### 3-2 まちづくりの目標

まちづくりの理念と、及び総合計画で掲げる将来像「歓声が聞こえる嬉野市」を踏まえて、嬉野市の特長・魅力を活かしたまちづくりを推進するものとし、まちづくりの基本目標（将来の都市像）と、目標実現に向けた基本戦略、及びその社会成果を設定します。

#### 1. まちづくりの基本目標 ～ 都市の将来像 ～

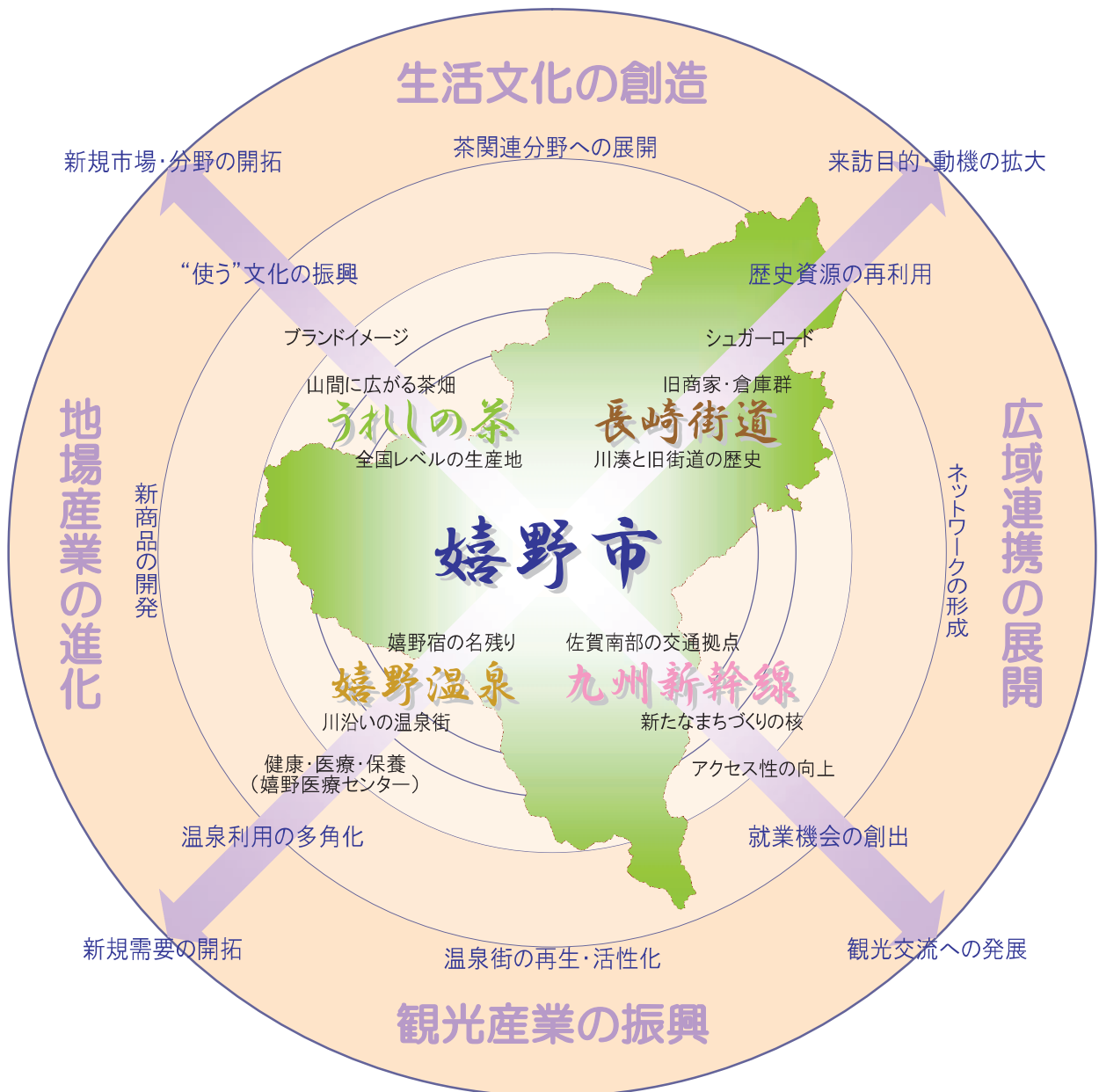
嬉野市が目指す20年後の都市像は、まちづくりの理念を踏まえるとともに、嬉野市内外それぞれの視点から「住むひとを信頼で支える生活安心都市」、「訪れるひとを癒して迎えるホスピタリティ都市」と掲げ、全体像として『誘う・魅せる・親しむまち 嬉野』と設定し、その将来像を構成するキーワードから、まちづくりの基本目標を定めます。



## 2. まちづくりの基本戦略

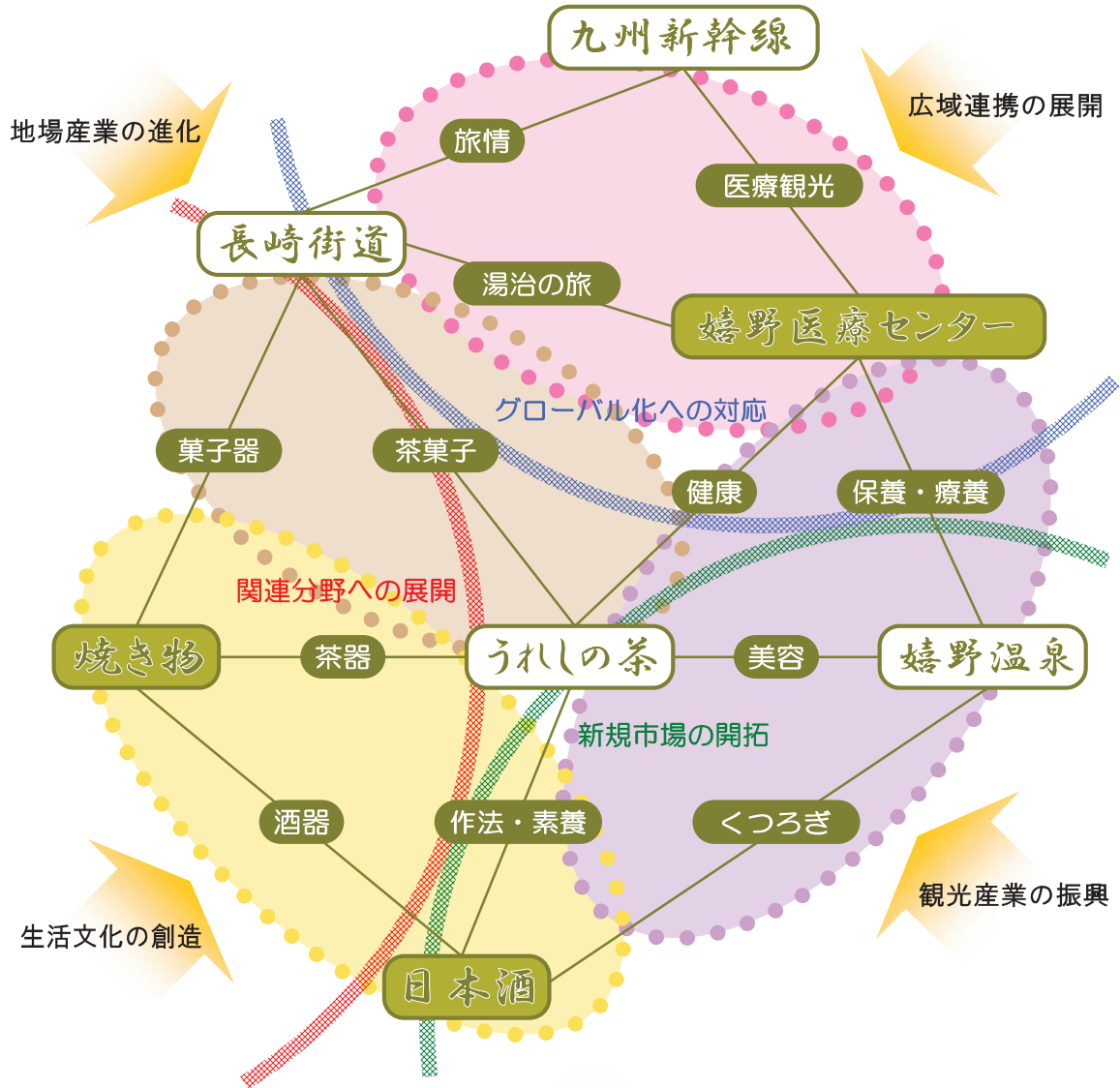
まちづくりの目標実現に向け、『長崎街道』、『嬉野温泉』、『うれしの茶』、『九州新幹線』をまちづくり活動の源泉に位置づけ、これらを相互に連携させ活用・機会の拡大を図ることで、生活文化の創造や産業振興・経済活動を促し、自ら社会的・文化的価値を生み出す魅力ある都市を目指すことを、嬉野市のまちづくりの基本戦略とします。

図 まちづくり基本戦略



【まちづくりの展開】

『長崎街道』、『嬉野温泉』、『うれしの茶』、『九州新幹線』の連携によって引き出される可能性や魅力を活用し、目標実現に向けたまちづくりを展開します。



市民力により地域の特性が輝くまち

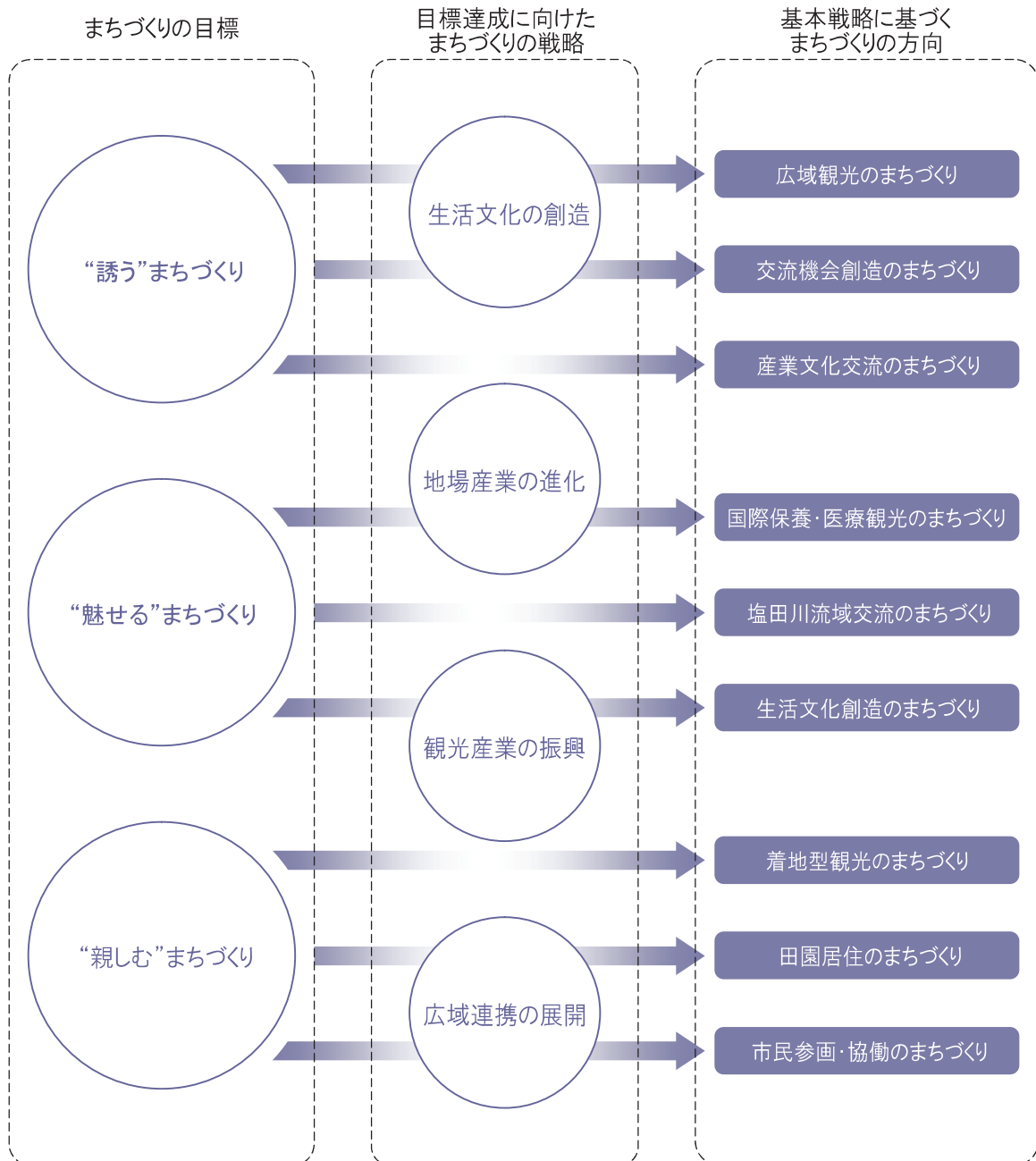
独自の新たな価値を生み出すまち

広域交流における佐賀南部集客No.1のまち

### 3. 社会成果の設定

まちづくりの基本戦略に基づく行動目標（まちづくりの方向）を示し、その取り組みによって得られる社会成果と、具体的な施策を設定します。

図 まちづくりの行動目標



## 広域交流における佐賀南部集客No.1のまち

広域交流における佐賀南部集客No.1のまち

嬉野市がこれまで育成、蓄積してきた地域資源・ブランドと、豊かな自然や農業、広域交通の要となる新幹線（嬉野温泉駅）を活用し、嬉野市の魅力の結集と広域連携によって、新たな誘客と多様な都市活動機会の創造を目指します。

### ■ 広域観光のまちづくり

#### 社会成果①

佐賀西部地域や長崎県などの周辺都市・地域と連携し、広域観光圏としての一体的な魅力向上に努め、観光誘客における地域間競争力の強化を図ります。

さらに、その観光圏において、嬉野市を観光交流の拠点とするため、西九州有数の宿泊機能を有する嬉野温泉やお茶などの地域ブランドと特色ある自然・農業の多面的活用、そして広域交通網の要となる新幹線・嬉野温泉駅の整備を推進します。

#### 具体的な施策

- ・広域観光振興事業の開発・推進
- ・九州新幹線西九州ルート建設促進
- ・幹線道路網の機能強化（周辺都市への連絡網の整備）
- ・嬉野温泉駅交通結節点機能・情報通信基盤整備

### ■ 交流機会創造のまちづくり

#### 社会成果②

嬉野温泉は、集客の「目的」ではなく「機能」として位置づけ、その宿泊機能を活かし、嬉野市に訪れる新たな需要を開拓します。

その需要を生み出す新たな都市活動機会として、嬉野市または嬉野市を中心とした広域圏におけるMICEの誘致を目指し、大都市圏と異なるこの地域の特性を踏まえた誘致強化に向け、誘致・開催機能（施設）や環境の整備を推進します。

#### 具体的な施策

- ・コンベンション・ビューローの設置
- ・MICE関連施設の整備、関連施設の一体的管理運営
- ・市街地整備（空地・空家の再開発）
- ・商店街活性化（商業再生）
- ・景観整備（街並み環境整備）

### ■ 産業文化交流のまちづくり

#### 社会成果③

嬉野市は、既存機能・資源を活かした交流産業都市を目指し、生産活動の場や消費活動の場の確保など都市機能集積に努め、新たな都市活動機会の創出を図ります。

特に嬉野温泉駅周辺地区を産業・文化の広域交流における連携拠点と位置づけ、新幹線を核として広域的な交通需要が結節する交通拠点性を活かし、多様な都市機能・施設の立地に向けた受け皿となる都市基盤や都市環境の整備を推進します。

#### 具体的な施策

- ・都市的土地利用誘導環境の整備（都市計画制度の弾力的な活用）
- ・嬉野温泉駅周辺市街地(都市基盤)整備
- ・計画的な土地利用、機能立地誘導
- ・企業誘致
- ・地域公共交通網の整備

## 独自の新たな価値を生み出すまち

独自の新たな価値を生み出すまち

嬉野温泉や塩田川を活かした地域文化に対し、従来の利用にとどまらず、多面的かつ有機的な活用を図る多様な産業・文化活動の環境・基盤を整備することで、新たな交流機会と経済活動の需要の開拓を目指します。

### ■ 国際保養・医療観光のまちづくり

#### 社会成果④

嬉野温泉については、従来の温泉地から、温泉を核として多様なニーズに対応した観光地への転換を目指し、多様な機能と連携し高付加価値化を図ります。

新たな観光市場の創造に向け、アジア圏からの集客も視野に入れた長期滞在需要の開拓を目指し、基幹的な取り組みとして、嬉野温泉の効能に優れた泉質と医療機関の高度医療を連携させ、保養・療養分野と連携した観光分野の育成を推進します。

#### 具体的な施策

- ・医療観光の運営体制整備
- ・市街地整備（機能の受け皿整備）
- ・温泉旅館の再生
- ・景観整備（療養環境整備）
- ・道路整備（広域医療の拠点化）
- ・商店街活性化（商業再生）
- ・嬉野医療センターの建て替え

### ■ 塩田川流域交流のまちづくり

#### 社会成果⑤

塩田川が有する環境機能・空間の活用と、過去に有してきた物流機能の再生によって、嬉野町と塩田町を塩田川ブランドで統合し、新たな観光交流機会を創出します。

嬉野温泉と塩田津伝建地区の区間においては、2つの観光拠点を結ぶ軸として、都市消費型の観光の連携を図るとともに、塩田川上流や吉田川、岩屋川内川流域の渓谷や棚田などを活かし、自然体験型観光や市民のレクリエーション活動を推進します。

#### 具体的な施策

- ・河川整備（親水整備）
- ・景観整備
- ・道路整備（山間部のアクセス）
- ・商業機能整備（非宿泊系観光商業）
- ・観光ボランティア育成・活動支援

### ■ 生活文化創造のまちづくり

#### 社会成果⑥

嬉野に暮らす人、訪れる人双方を繋ぐ、魅力的な都市の形成に向け、新たな社会的・文化的価値を生み出す社会構造を構築します。

価値創造の源泉には「うれしの茶」をはじめとするブランド力やイメージが確立している地域資源・産業を位置づけ、生産だけでなく使う機会や活動の場をつくり、例えば、お茶に対しては器や茶菓子など関連分野を拡大させるなど、地域文化としての価値の創造を推進します。

#### 具体的な施策

- ・地場産業の振興・関連分野の開拓
- ・地域文化体験施設の整備
- ・市街地整備（温泉街再生）
- ・景観整備（街並み環境整備）
- ・観光圏整備実施計画の策定

## 市民力により地域の特性が輝くまち

市民力により地域の特性が輝くまち

地域・人のつながりの構築と、市民が活躍する多様な機会の充実を図ることで、自己実現が可能な質の高い人生“クオリティオブライフ”が送れる社会環境を創出し、市民が主役となった嬉野市の新しい魅力の創造を目指します。

### ■ 着地型観光のまちづくり

#### 社会成果⑦

自然と農業を活かした地域文化を活かし、市民が主体となって来訪者をもてなす活動を促進し、新たな交流需要を掘り起こします。

新規需要開拓に向けた観光開発については、地域が主体となって誘客し、市民がさまざまなかたちで参画できる観光地を目指し、農業や焼き物など地域の文化を体験・学習できる場・機会をつくり、住む人と訪れる人の交流機会の拡大を推進します。

#### 具体的な施策

- ・計画的な土地利用（自然地の保全）
- ・景観整備（文化的景観の保全）
- ・農業の多角化（交流機能整備）
- ・農村集落の整備（まちなみ環境整備）
- ・地域文化体験施設の整備
- ・市民参加の協働体制の整備

### ■ 田園居住のまちづくり

#### 社会成果⑧

市街地の“外”において多くの市民が生活を営む田園地域の既存集落において、祭事、コミュニティなどの地域文化の活性化や農業経営の維持を図ります。

市街地と一体的な生活圏を形成する農業・里山集落においては、都市部との生活サービスを楽しむ環境格差の解消や、魅力的な生活スタイルの提案によって定住を促進するとともに、市民参加型の休耕田の活用や自然生態系の保全活動の推進に取り組みます。

#### 具体的な施策

- ・適正な土地利用誘導
- ・農村集落の整備（まちなみ環境整備）
- ・農業経営支援

### ■ 市民参画・協働のまちづくり

#### 社会成果⑨

市民生活の豊かさを高めるために、社会参画の機会を増やし、生き甲斐や満足感のある暮らしの場と、主体性のある地域コミュニティを構築します。

その主体づくりにおいては、景観形成、観光ボランティアなどのもてなし活動、防災・防犯活動、公共空間のバリアフリー化など市民（住民）の身近な都市政策に関し、その実施に向けた計画づくりの段階から市民が積極的に関与・監視する地域自治を育てます。

#### 具体的な施策

- ・地域組織（自治会）の強化
- ・NPO法人の立ち上げ
- ・里山づくり（棚田の共同管理）
- ・景観整備（協定、ルールづくり）



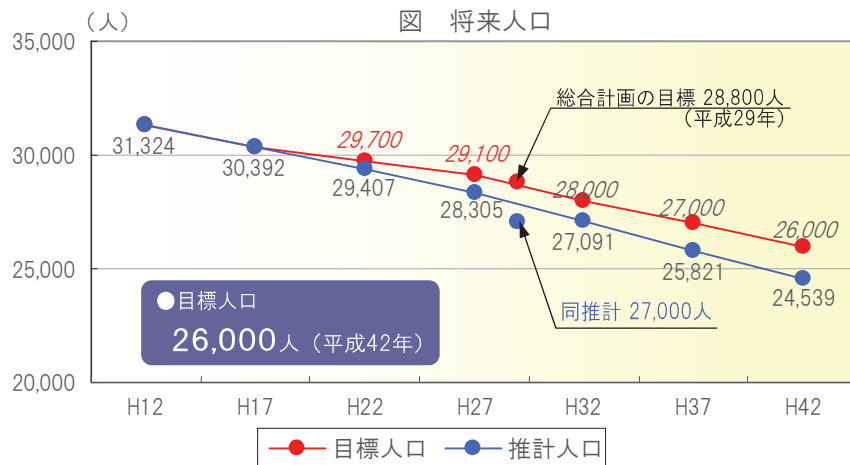
## 4. 将来の見通し

まちづくりにあたって、将来における都市の人口規模、産業振興の方向性を想定し、適正なまちづくりを推進します。

### (1) 居住人口

平成17年現在、嬉野市の人口は30,392人（国勢調査）で、平成12年（同調査）から932人減少しています。この状況を踏まえ、国立社会保障・人口問題研究所がコーホート要因法を用いて推計した目標年次（平成42年）の嬉野市の推計人口は約24,500人となります。また、人口構造も現在からさらに少子高齢化が進行し、同目標年次における65歳以上の高齢化率は40%近くに達しているものと予想されています。

総合計画において、急速な人口減少と少子化の対策として生活環境の整備や企業誘致に取り組み、平成29年における目標値を28,800人と掲げていることから、その方針を踏襲し、平成42年における目標人口を26,000人と設定します。



(人口単位：人)

	2000年 (H12)	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)	2017年 (H29)	2020年 (H32)	2025年 (H37)	2030年 (H42)
目標人口	—	—	29,700	29,100	28,800	28,000	27,000	26,000
実績値	31,324	30,392	—	—	—	—	—	—
推計値	—	—	29,407	28,305	27,000	27,091	25,821	24,539
高齢化率	65歳以上	—	28.2%	31.5%	—	35.2%	37.5%	39.1%
	75歳以上	—	16.7%	18.7%	—	19.7%	22.4%	25.7%

出典：国立社会保障・人口問題研究所

※コーホート要因法：ある年の男女・年齢別人口を基準として、ここに人口動態率や異動率などの仮定値を当てはめて将来人口を推計する方法。平成17年までの実績値（国勢調査）をもとにして推計を行っている。

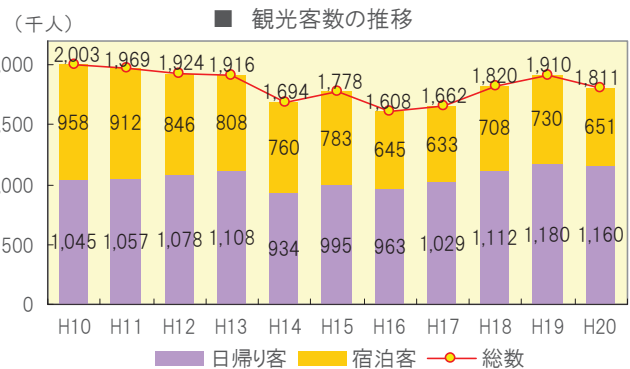
## (2) 交流人口

嬉野市は佐賀県下で宿泊観光客が最も多い観光地であり、観光は嬉野市のまちづくりに大きく影響する重要な産業となっています。しかしながら、近年は嬉野温泉を訪れる観光客が減少・停滞傾向にあるなど厳しい状況が続いており、従来までの団体旅行主体の誘客のみでは、この地域の観光産業の維持が困難になってきています。

一方で、国の新成長戦略（平成22年6月18日閣議決定）の7つの戦略分野に、観光立国・地域活性化や、健康（医療・介護）が位置づけられるなど、温泉や医療・保養施設が集まる本市にとっては、既存ストック（資源・機能）を活用したまちづくりの推進が期待されます。

したがって、当面の目標として平成10年当時の水準まで宿泊観光客数の回復を目指すこととし、閉鎖した旅館・ホテル等の再生によって宿泊機能の強化を図るとともに、観光市場のグローバル化も見据え、コンベンション・ビューローを設置し、行楽だけでなく、新たに学術・文化・スポーツをはじめとする各種会議、大会、イベントなどMICE需要の誘致、さらに、嬉野医療センターをはじめとした医療施設との連携による保養・療養など連泊型の滞在需要を掘り起こしに努めます。

また、温泉街の活性化・まちなみ整備と、市内各地域の歴史・文化資源の発掘・活用、並びに鹿島市や武雄市、有田町など隣接する、又は歴史的に関係のある都市の観光資源との広域連携によって、これまで取りこぼしてきた周辺都市を訪れる観光客の誘客に取り組み、日帰り観光客数の増加を図ります。



### 〈解説〉MICEと誘客のイメージ

MICEとは、Meeting、Incentive、Convention、Exhibitionの4つの市場単位の頭文字をとった造語であり、嬉野市が取り組む新たな誘客の市場として、飲食や宿泊を伴った少人数の企業・団体の会議の誘致を目指します。

MICEの区分	概要
Meeting	企業等の会議、セミナー等
Incentive(Travel)	招待・優待・視察などの旅行。企業報奨・研修旅行。
Convention(Conference)	大会、学会、国際会議等
Exhibition/Event	文化・スポーツイベント、展示会・見本市